

東京湾海況情報 28-5

東京湾水質調査結果（平成28年8月）

（平成28年8月22日発行）

千葉県水産総合研究センター
 東京湾漁業研究所
 〒293-0042 富津市小久保3091
 TEL 0439-65-3071
 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp
 千葉県農林水産技術会議

資料 水質調査 8/1：内湾（ふさなみ）、内房海域（ふさみ丸）
 関東・東海海況速報（8/1）、東京湾口海況図（8/1）
 モニタリングポスト（8/1：国土交通省関東地方整備局、海上保安庁）
 神奈川県水産技術センター（8/3）、東京都環境局（8/2, 3）

【 水温・塩分の状況 】

湾内の表層水温（図1）は23～27℃台で、内湾及び内房海域とも平年より低く、内湾の千葉県側では2～4℃ほど低めでした。塩分はほぼ全域で23～33PSU台で、本牧から羽田・浦安にかけての沿岸では低塩分状態となっています。

縦断面の水温・塩分の鉛直分布（図3）では、水温18℃台、塩分33.5PSU以上の水塊が内湾北部の水深20m以深で見られています。

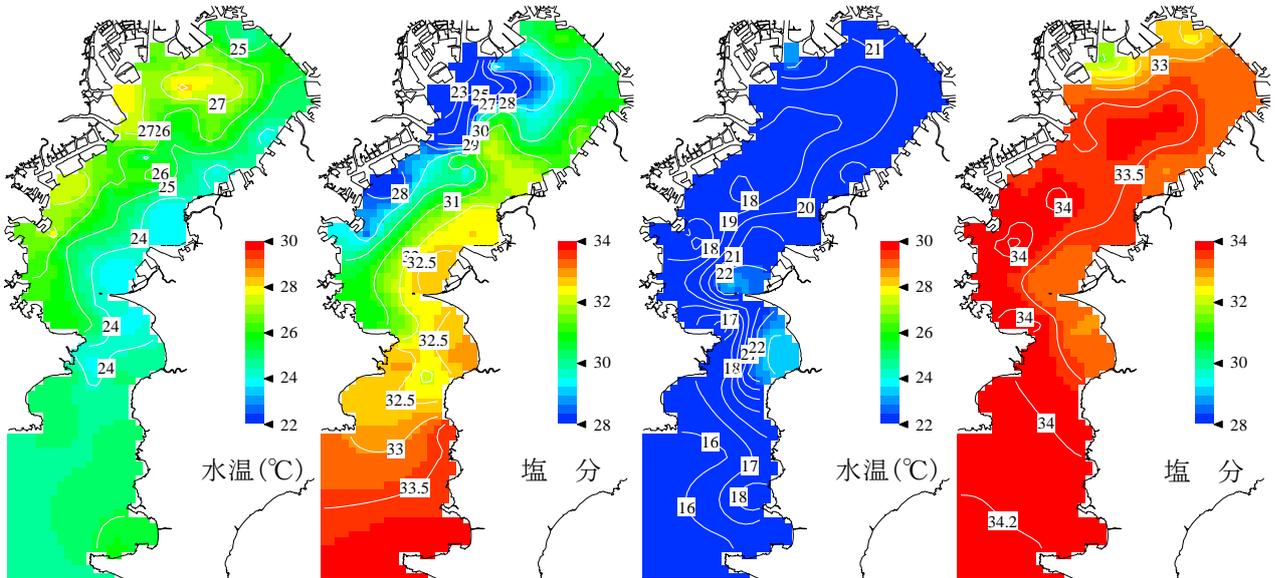


図1 水温・塩分分布（表層）

図2 水温・塩分分布（底層）

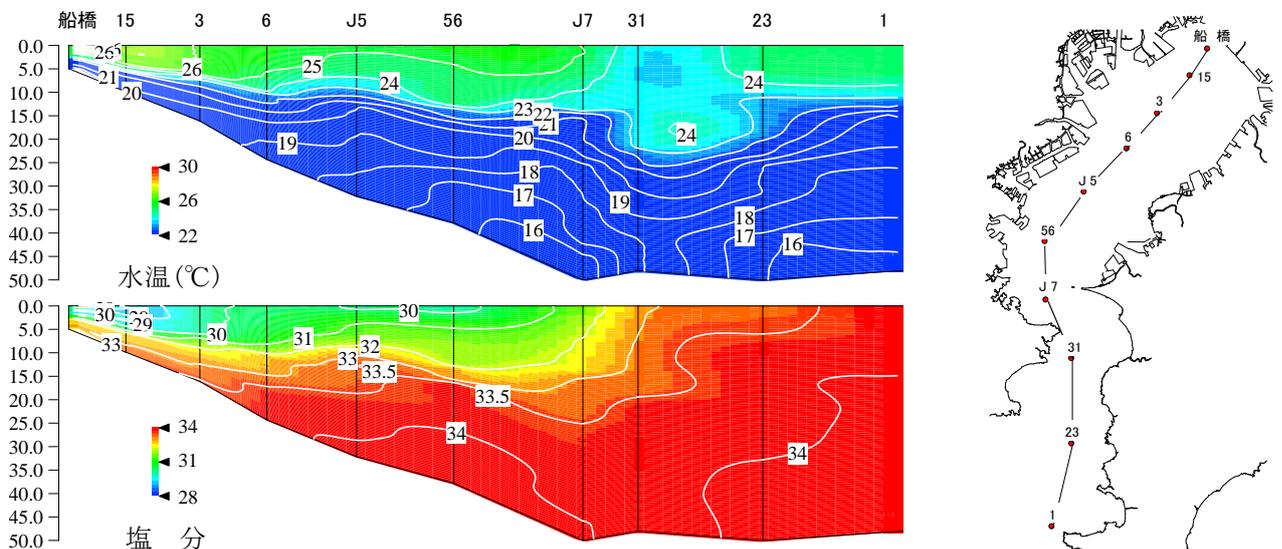


図3 縦断面の水温・塩分の鉛直分布（上：水温、下：塩分、右：調査ライン）

【 赤潮の状況 】

赤潮は発生していませんが、羽田沖から浦安にかけての北西部ではpHがやや高く、水色もやや褐色を帯びているところがありました。

プランクトンはケイ藻のコシノディスクス (*Coscinodiscus* sp.)と渦鞭毛藻のケラチウム (*Ceratium furca*)がやや多くみられました。

一方、保田から富浦にかけての周辺海域では渦鞭毛藻のケラチウム (*Ceratium furca*)がみられていました。

これらはいずれも魚貝類に有害な種類ではありません。

※ 千葉県の赤潮の目安は次のとおりです。	
色	: オリーブ～褐色
酸素飽和度	: 150%以上
透明度	: 1.5m以下
pH	: 8.5以上
クロロフィルa	: 50 μ g/L以上

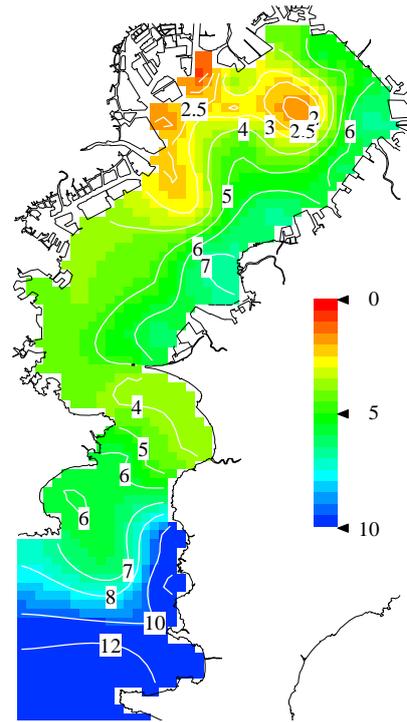


図4 透明度の分布 (m)

【 貧酸素水塊の状況 】

内湾底層部の溶存酸素量(図5, 6)は中央部西側から北部海域で低下し、西側を中心に0.5ml/L以下の強い貧酸素水塊が分布していました。

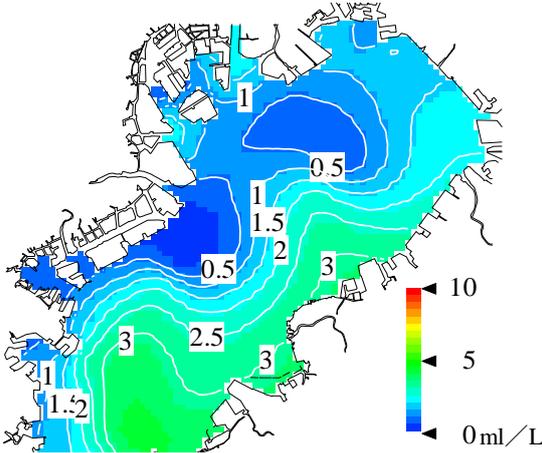


図5 底層部の溶存酸素量の分布(内湾)

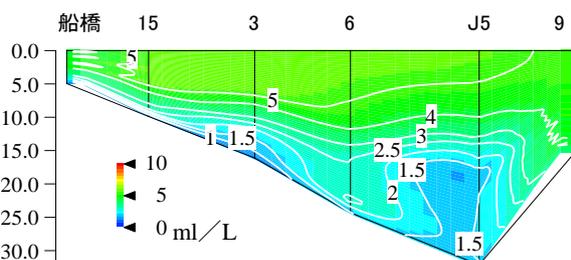


図6 縦断面の溶存酸素量の分布(内湾)

※ 千葉県水産総合センターでは、溶存酸素量2.5ml/L(酸素飽和度50%)以下を貧酸素水塊としています。

【 栄養塩の状況 】

湾内の表層栄養塩(図7)は溶存無機態窒素(DIN)、リン酸態リン(PO_4-P)とも内湾から内房北部海域で平年よりやや多くなっています。

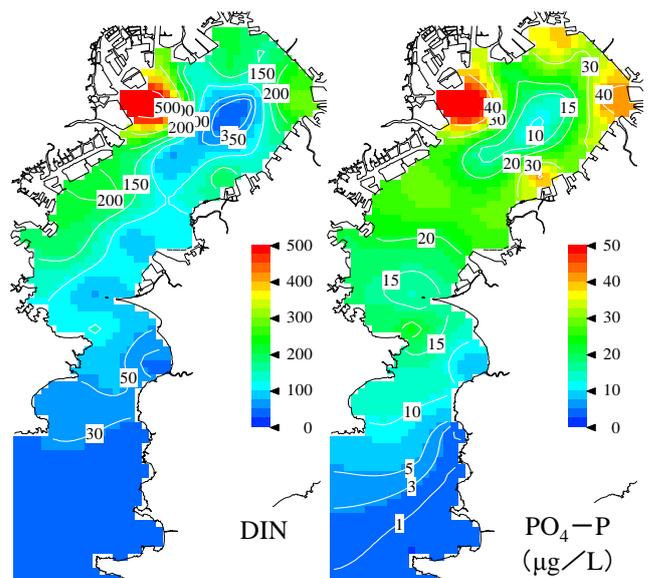


図7 栄養塩濃度の分布(表層)

【黒潮の状況】

黒潮は7月の終わり頃からB型基調に変わり、その流軸は1日現在八丈島の北側を通過した後、房総半島南東岸を大きく迂回しながら流れています(図8)。

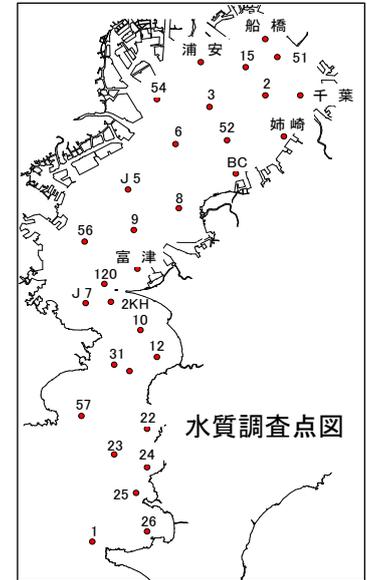
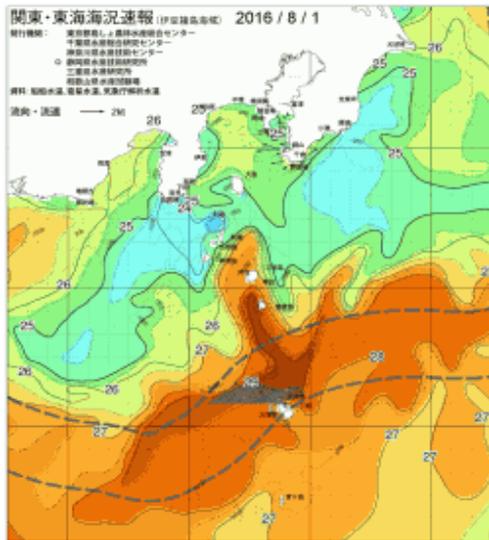


図8 黒潮の動き (平成28年 8月 1日)

表1 主な調査点の水質調査結果 (表層, 溶存酸素量のみ底層)
(): 最近10年間の平均値 (2006~2015年)

調査点	水温 (°C)	塩分	透明度 (m)	pH	溶存酸素量 (ml/L)	アンモニア態窒素 (µg/L)	溶存無機態窒素 (µg/L)	リン酸態リン (µg/L)	クロロフィルa (µg/L)
内湾	船橋	24.3 (28.3)	30.95 (23.60)	5.4 (1.3)	8.2 (8.6)	0.8 (3.7)	152 (43)	175 (148)	38 (11)
	st.15	26.9 (28.1)	28.65 (25.25)	2.5 (1.6)	8.4 (8.7)	0.9 (1.5)	110 (37)	178 (108)	27 (6)
	st.3	25.9 (27.6)	29.70 (26.49)	4.5 (2.0)	8.4 (8.7)	0.4 (1.3)	115 (32)	123 (48)	21 (5)
	st.6	25.5 (27.6)	30.13 (26.72)	4.0 (2.3)	8.4 (8.6)	0.7 (1.0)	70 (36)	79 (61)	14 (5)
	st.9	24.9 (26.4)	31.78 (29.17)	5.0 (2.5)	8.2 (8.5)	2.7 (2.7)	44 (18)	80 (56)	21 (5)
	st.BC (盤洲Cブイ)	23.6 (28.0)	31.95 (27.89)	7.0 (2.2)	8.0 (8.6)	2.9 (3.3)	96 (19)	182 (40)	41 (5)
	st.8 (盤洲A南)	23.5 (26.8)	32.04 (29.36)	7.0 (2.6)	8.1 (8.5)	2.0 (2.3)	41 (16)	97 (27)	27 (5)
	富津	23.4 (25.8)	32.71 (30.30)	6.5 (3.0)	8.1 (8.3)	3.1 (2.9)	46 (35)	87 (48)	16 (2)
内房海域	st.2KH (第2海ほ下)	23.9 (25.6)	32.33 (30.75)	4.0 (3.7)	8.3 (8.3)		41 (22)	69 (48)	15 (8)
	st.31	23.5 (25.1)	32.74 (31.56)	6.0 (6.0)	8.3 (8.3)		30 (16)	53 (35)	13 (5)
	st.23	24.5 (25.5)	33.18 (33.05)	7.0 (12.9)	8.2 (8.2)		16 (13)	18 (24)	5 (2)
	st.1	24.8 (25.0)	33.86 (33.50)	15.0 (14.5)	8.2 (8.2)		10 (17)	20 (28)	ND (2)
	st.10 (下洲沖)	23.6 (25.2)	32.52 (31.33)	4.0 (4.3)	8.3 (8.3)		21 (15)	59 (38)	14 (4)
	st.12 (湊沖)	24.3 (25.7)	32.75 (31.37)	4.0 (4.8)	8.3 (8.3)		20 (16)	25 (32)	7 (3)
	st.22 (保田沖)	24.8 (25.7)	33.65 (33.22)	11.0 (13.3)	8.2 (8.2)		9 (16)	12 (26)	1 (2)
	st.24 (富山沖)	24.9 (25.5)	33.58 (33.30)	13.0 (12.0)	8.2 (8.2)		9 (19)	12 (24)	1 (1)
	st.26 (館山湾内)	25.1 (25.2)	33.70 (33.47)	11.0 (13.4)	8.2 (8.2)		14 (15)	19 (23)	1 (1)

注) 透明度、pH、クロロフィルaの欄の橙色は赤潮の基準に、溶存酸素量の欄の青色は貧酸素水の基準に達していることを示しています。